

■ 第28回 多摩川流域セミナー

「源流～多摩川のさいしょの一滴を見に行こう！」

主催：多摩川流域懇談会

今年、多摩川流域懇談会が設立して10周年を迎えます。秋には10周年記念シンポジウムを行いますが、その前に源流および河口で多摩川流域セミナーを開催します。

今回は、2日間にわたり多摩川源流・笠取山にある「水干」を見学したり、周辺の自然を観察するなど源流への理解を一層深め、講師と参加者が自由に意見交換しあえればと思います。

● 日時

… 平成20年6月21日(土)～22日(日)

第28回多摩川流域セミナー
「源流～多摩川のさいしょの一滴を見に行こう！」
日時：2008年6月21日(土)～22日(日)
場所：6/21(土) 奥多摩駅 (JR青梅線) 9:45集合
6/22(日) 小菅村役場 10:00集合
10:00 JR奥多摩駅 出発
11:30 作場平着 水干へ登山開始 (途中で昼食)
14:00 水干 到着
17:30 小菅村 到着
18:00 夕食・交流会 (広瀬屋旅館)
10:00 小菅村役場2階
11:45 中締め閉会
12:45 エクスカーション
16:00 JR奥多摩駅 到着・解散

● プログラム

… 1日目(2008年6月21日 土曜日)

- ◇ 10:00 JR奥多摩駅 出発
- ◇ 11:30 作場平着 水干へ登山開始(途中で昼食)
※ 源流ガイド(中村文明さん他)付
- ◇ 14:00 水干 到着(見学後下山)
- ◇ 17:30 小菅村 到着
- ◇ 18:00 夕食・交流会

… 2日目(2008年6月22日 日曜日)

- ◇ 10:00 流域セミナー(小菅村役場2階)
話題提供およびディスカッション
- ◇ 11:45 中締め閉会(昼食)
- ◇ 12:45 エクスカーション
「松鶴のブナ」見学など
- ◇ 16:00 JR奥多摩駅 到着・解散

● 問い合わせ先

… 多摩川流域懇談会事務局 NPO法人多摩川エコミュージアム

TEL.FAX.044-922-1025 <http://www.seseragikan.com> npo@seseragikan.com

■ 第28回 多摩川流域セミナー 開催報告

源流 ～多摩川のさいしょの一滴を見に行こう！～

主催：多摩川流域懇談会

2008年(平成20年)6月21日(土)22日(日)の2日間にわたって、多摩川流域懇談会が主催する第28回多摩川流域セミナーが山梨県北都留郡小菅村で開催されました。

1日目は、多摩川の源流である笠取山「水干(みずひ)」まで実際に足を運び、源流域の環境および取り組みを学びました。2日目は、小菅村役場2階会議室においてセミナーが開催されました。

あいにくの天候の中、37人の方々が出席してくださいました。参加されたみなさんは、あらためて“源流のすばらしさ”を実感できたとの声が多数聞かれました。



1. 奥多摩駅集合

6月21日(土)午前9時45分、JR青梅線・奥多摩駅に集合しました。あいにくの天候でしたが、水干への登山口となる作場平に向かいました。



2. 作場平にて

11時15分、作場平に到着。水干への登山の案内をしてくださる中村文明さんと佐藤英敏さんと合流しました。

開会にあたり、多摩川源流ネットワーク代表・多摩川源流研究所所長の中村文明さん、続いて京浜河川事務所長の鈴木研司所長よりあいさつがありました。



3. 水干への登山

11時30分、準備体操のあと、Aチーム、Bチームに分かれて、いよいよ登山開始です。雨も上がり、しっとりとしたマイナスイオンたっぷりの笠取山の山道を、水干へと向かいます。

Aチームの案内人は、中村文明さん。Bチームの案内人は、佐藤英敏さんです。両者ともに何度も水干登山を案内された源流の達人です。



“源流のみち”水源森の説明

途中、標高により生息している木の種類が違うこと、鹿などが食い荒らした木の幹などの説明を受けながら進みました。



ちょっとひと休み。。

午後1時00分、ヤブ沢の頭付近で昼食をとるためひと休み。英気を養って水干を目指します。



分水嶺を抜けて水干へ

多摩川・荒川・富士川に水を分ける「小さな分水嶺」や、笠取山への分岐点をへて、午後2時10分、多摩川の最初の一滴がしたたる水干に到着しました。



多摩川源流・・・「水干」

かわるがわる水干の一滴を見守ります。水干から多摩川の源となる一滴が生まれるあまりの感動で登山の疲れも吹き飛びました。



多摩川最初の流れへ

水干の一滴を見た後、水干から60mほど下に川としての流れの最初である“水場”を訪れて、のどの渇きを潤しました。



さあ、下山です

笠取小屋で小休止したあと一休坂経由でいっきに下山。午後4時30分、全員無事に作場平に到着しました。今夜は、小菅村で一泊して、明日のセミナーに備えます。



2日目は流域セミナーです。午前10時から小菅村役場2階会議室にて開催されました。参加者は、小菅村の旅館に宿泊した方々、2日目から参加した方々の計52人です。源流に深い関わりのある方々のお話を聞き、源流の“将来のあり方”を考えました。



1. 開会のあいさつ

総合司会は、多摩川流域ネットワーク(TBネット)の安元順さんです。はじめに、この6月に小菅村村長に就任された降矢英昭村長より、多摩川流域セミナーが源流で開催されたことを歓迎していただきました。



2. 話題提供

今回のセミナーでは、多摩川源流をテーマに、3名のみなさんから発表がありました。

(1) 多摩川源流猟師の民俗知

はじめに、猟師の青柳万寿男さんによる「多摩川源流猟師の民俗知」です。青柳さんは、全国的に減少している猟師を、小菅村で続けておられます。猟師は、森の番人として、山の資源である鳥獣を食料・薬などに利活用するとともに、農林業への鳥獣被害の対策をする役目をはたすことなどを話されました。

青柳さんは、老マタギの「モリを盛らせ、ケモノを盛らせ、ヒトを盛らせろ」ということばを紹介され、山と鳥獣と人との共生の大切さを説かれました。



(2) 源流の森林再生について

つぎに、北都留森林組合の中田無双さんによる「源流の森林再生について」です。中田さんは、東京都市部の生まれですが、小菅村に家族とともに1ターンで移住され、森林を守る仕事をしています。北都留森林組合は職員30人で、小菅村、丹波山村、上野原市の森林の維持管理や利活用、林道や作業道づくりなどを行っています。

中田さんは、森林・林業の問題として、国産材の需要低迷、林業就業者の減少、過疎化による森林所有者の空白化、野生生物の被害など、林業を営む山村での深刻な課題を挙げられました。そんな中、近年は流域の上下流連携を推進が進み、多摩川流域自然再生協議会での森林再生事業や、林業体験教室等での環境教育や流域交流、企業との協働による森林整備が少しずつ広がっていることも報告されました。これら流域ぐるみの新しい交流や協働のとりくみに期待したいです。



(3) 多摩川源流にこだわった村づくり

最後は、小菅村役場源流振興課長の佐藤英敏さんによる「多摩川源流にこだわった村づくり」です。小菅村は、明治22年に誕生し、昭和30年には人口2,224人というピークを迎えましたが、セミナー当日、現在の村民人口は901人と、減少を続けています。昭和56年、小菅村第1次総合計画の開始から、現在は平成12年の第3次総合計画の「憩い 守り 集う 源流の里 こすげ ～交流人口の増大をめざして～」がすすめられています。

この第三次総合計画では、平成13年の多摩川源流研究所の設立、源流の環境保全と自然再生に関する事業、多摩川源流自然再生協議会の設立、多摩川源流大学の設置など、さまざまなことに取り組みまれていることが紹介されました。



3. ディスカッション(意見交換会)



多摩川源流をテーマにした3名の方の紹介の後、参加者全員によるディスカッションが行われました。TBネットの中村文明さんと京浜河川事務所調査課 工藤美紀男課長によるコーディネートが進められました。

参加者に配布した「意見・質問カード」には、質問・意見や、前日の水干登山の感想が寄せられました。「どのような狩りをやって、どんな獲物をどのくらいしとめるのか?」「企業がとりくむ森の活動はどのようなものか?」「林業で生活し、村を活性化するにはどうすればいいか?」などの質問・提案があり、それらを元に活発な意見交換が行われました。

また、小菅村の参加者から、源流の村としてのご自分の役割の紹介などをされました。



4. フォローアップの紹介

その他の話題として、京浜河川事務所調査課の高橋係長から、「多摩川水系河川整備計画フォローアップについて」の取り組みが紹介されました。



5 閉会のことば

最後に、京浜河川事務所の林雅知副所長による閉会あいさつで、2日間にわたった第28回多摩川流域セミナーは幕を閉じました。



■ 雨のためエクスカージョンは中止に。。。

悪天候のため予定していた「松鶴のブナ」への散策・野外調査は中止となってしまいました。

参加者のみなさんはお昼を食べた後、小菅村にある物産館へ立ち寄り、お土産を購入して帰路に就きました。

